

# よみがえる三河湾

## EMも会員も増殖培養を続ける 三河湾浄化市民塾の成果

### 三河湾にスナメリが戻った 矢作川に天然鮎が大量遡上 アサリ・トリ貝が豊漁… EM活動の成果は 今、三河湾で実現する。

平成14年に三河湾浄化市民塾が発足し、その活動は年々拡大。三河湾浄化市民塾は自主・自立の大人のボランティアによる市民活動で、「ワクワクできる環境浄化」を合い言葉に、楽しいからやりたいとEM活性液を様々なエリアで投入を開始。

EM活性液を会員の家庭排水をはじめ地域の河川、ホテル、企業、養豚農家の浄化槽、水田などへと投入。そのEM投入量は会員自身でも把握できないくらい広がっています。

そして成果も目にみえるように具体的な形で現れてきています。

#### ■スナメリの群れを確認

三河湾にはもともと世界最小のイルカで国際保護動物に指定されているスナメリが多数生息していましたが、年々固体数が減り、一時は絶滅が危惧されました。しかしここ2~3年、漁船やヨットの周りで泳ぐ姿が多くみられるようになり、固体数が増えてきていると考えられています。三河湾がよみがえるつつあるひとつの証拠です。

#### ■天然鮎の大量遡上始まる

全国的に天然鮎が激減する中、三河湾へ流入する矢作川水系では、旧足助町でのEMの大量使用が始まった翌年から、天然鮎の遡上数が激増し、特に今年は5月初旬の時点で、すでにこれまでの最高を大幅に上回っています。

#### ■各地でアサリやトリ貝が掴みどり

昨年7月から、幡豆町の事業「はず・海ねっと」への協力依頼を受け、EM投入を開始。港や河口の様子が一変し、かつては命のゆりかごの役割を果たしていた大きな浅瀬が復活。ここから稚貝が大量に供給され、潮干狩り場はもちろん、これまで全く実績のなかった海岸にまで、驚異的な量のアサリやトリ貝が発生しています。



中日新聞 2007年5月3日 朝刊

愛知県東部を流れる矢作川で、アユの遡上（そじょう）が最盛期を迎えている一写真（陸地巧輝撮影）。初夏の風物詩だが、今年は記録的な大量遡上だという。

#### アユ命の飛躍

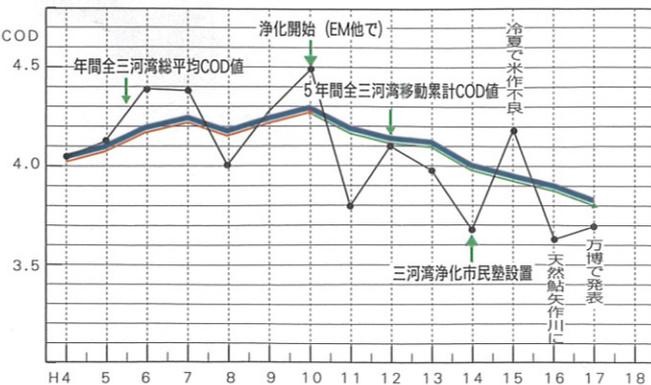
暖冬影響大量に遡上

豊田の矢作川

同市の矢作川天然アユ調査会によると、この日だけで約28万匹の稚アユが遡上。3月下旬から合わせると約350万匹が遡上し、98年から始めた調査で最多だった同年の335万匹を大幅に上回った。



#### ■三河湾沿岸5都市海域水質の経年推移(COD値)と三河湾市民浄化塾の活動の成果



三河湾は強い閉鎖型内湾でしかも浅い(平均深さ10m)ので、その年の気候(降雨量、台風の数、気温等)の影響を受けやすく、COD値のバラツキが大きい事に配慮し、湾全体平均値を5年間移動累計値に置換してグラフ化した。



比嘉先生をお迎えして、活動報告を熱心に行う三河湾浄化市民塾の皆さん。

